33. 技士勉強会今後の展望及び将来について ー北海道高気圧酸素治療技術研究会の活動からー

鈴木尚人*1) 嵐田健太郎*1) 赤塚泰宏*2)
御家瀬亮*3) 佐藤弘一*4) 石川勝清*5)
長内 宏*6) 安藤貴司*6) 越後 敦*7)

*1) 医療法人財団敬和会時計台病院
*2) 医療法人白石脳神経外科病院
*3) 医療法人社団豊生会東苗穂病院
*4) 医療法人井上病院
*5) 北海道大学医学部附属病院
*6) 医療法人静和会静和記念病院
*7) 医療法人禎心会病院

我々北海道内の高気圧酸素治療(以下 HBO)に従事する技士有志は、平成 3 年より北海道高気圧酸素治療従事者勉強会(以下勉強会)として平成 9 年までに9回、平成 10 年からは北海道高気圧酸素治療技術研究会(以下研究会)と改め昨年までに 3 回、計 12 回の勉強会及び研究会を開催し活動して来た。

こうした我々の活動は第 27 回と34 回の日本高気圧環境医学会総会中の技術部会並びにシンポジウムにおいて、その経緯と経過及び現状を中心に報告して来た。その間、学会においては管理医及び認定技師制度の開始や、安全基準の見直し作業が始まる等の動きが見られたものの、勉強会発足当時からの HBO に従事する技師のおかれている環境と立場に大きな変化は見られてはいない。一方で、臨床工学技士としての業務は多様化し取り巻く環境は大きく変化して来ている。

今回は我々がこうした勉強会、研究会等の活動を始めてから10年を経過した事に伴いこれまでの成果と問題点を総括しつつ、今後の技士勉強会の展望と将来を報告したい。

34. HBO開始前に施行した心電図検査について

栗原真由美*1) 市岡由美*1) 大久保淳*1)
杉原英司*1) 鈴木紀江*1) 久野木忠*1)
畑谷重人*1) 大橋裕樹*2) 池田一美*2)
池田寿昭*2) 工藤龍彦*1)

*1) 東京医科大学八王子医療センター臨床工学部
*2) 同 救命救急部

【目的】HBO 中は高圧徐脈、心拍出量の低下により不整脈の発生や心不全悪化などが指摘されている。当センターではすべての患者に HBO 開始前に必ず心電図、胸部レントゲン撮影を行っており、今回は心電図検査結果について報告する。

【対象および方法】2000 年 6 月より 2001 年 5 月の 1 年間に HBO を施行した 73 例(男性 46 例、女性 27 例、平均年齢 56.7 歳)を対象とし、HBO 施行前の心電図について分類した。

【結果】心電図上異常所見が指摘された症例は 30 例で全症例数の 41%であった。分類は心房細動が最も多く 7 例あった。次いで早期再分極、QT 時間短縮、ST 低下が 2 例ずつ、他には右脚ブロック、洞性徐脈、右室、左室肥大などが 1 例ずつであった。また複数記載のあった症例もあり、心房細動と右脚ブロックと V_2～V_6ST 低下や心房性期外収縮と徐脈、期外収縮と中等度左軸偏位などが 5 例であった。循環器疾患のため HBO を中止した症例は 4 例あった。そのうち 1 例は意識消失にて救急車で来院し IV-DSA にて左内頚動脈閉塞と診断。来院時 V_2～V_6ST 低下、トロポニン T 陽性であったが左内頚動脈閉塞の治療を優先し HBO 施行した。終了後、血液検査で CK 上昇にて心筋梗塞と診断のため HBO は中止となった。

【結語】今後は高齢や糖尿病疾患等問題のある症例が増加していくと思われるが、安全に HBO を施行するために心電図検査は重要である。